

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703238
法人名	有限会社 ミラクル
事業所名	グループホーム この葉
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区三ツ頭2丁目15-10 (電話) 093-691-8858

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】(2008年10月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)21,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,050円				

(4) 利用者の概要(10月4日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若戸病院 / 高嶋クリニック / 有吉歯科 / 新水巻病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームこの葉は、住宅街に位置し、木造2階建ての1階部分に1ユニットを有する。室内は採光良く、広々としており、入居者は、その空間を利用して、歩行訓練などを日々行っている。庭には、近隣住民と耕作している畑や飼っている犬があり、楽しみや暮らしの潤いに一役かっている。食事については、出来合いの物は使用せず、担当職員が入居者の好み・状態をふまえ、工夫を重ねた家庭的なものが提供され、優しい味つけが、入居者にも好評の様子であった。母体法人は、他にも、グループホームや宅老所・デイサービスを運営しており、合同で行われる行事の際など、入居者間の親睦を図っている。管理者を含め、看護師資格を有する職員が4人おり、入居者の重度化やターミナルケアに信念を持って、積極的に取り組んでいる。その姿勢は、各居室に介護用ベッドを完備していることや介護職の他に看護師も加わる夜勤体制など随所に万全な体制づくりに努めている。さらには、ホーム上階には、管理者が暮らしている為、緊急時などにも心強い。グループホームこの葉は、設立当初からの確固たる信念に基づき、理念の文尾「看取り介護まで」を日々、誠実に実践しているグループホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域密着型サービスとしての理念、家族などへの報告、思いや意向の把握、チームでつくる利用者本位の介護計画の4項目について、課題が挙げられていた。以上の項目内の指摘事項について、職員間で検討し、ホームの理念をふまえながら、信念にそった取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を「より良いサービスへ結びつける」機会としてとらえ、前向きに取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的実施している。家族代表や町内会長・地域包括支援センターの参加があり、活動報告や防災訓練の協力依頼などを行っている。活動内容や行事の報告を行っており、運営推進会議を地域との連携を高める機会として活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問を促す観点から、利用料などの支払いについては、振込みは行っていない為、家族の訪問は、必ず月に1回はある。その際、写真を渡したり、暮らしぶりや健康状態などについても報告を行っている。また、家族が遠隔地の方については、ハガキで様子を伝えている。介護相談員の受け入れを行うとともに、面会時や運営推進会議などで、意見や意向を言っていたるに努め、出された意見や意向は、その反映に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	清掃などの地域活動に入居者と参加すると共に散歩時に話したり、洗濯物の取り込みを手伝ったり、敷地内の畑作業を一緒に行うなど日常的な交流がある。また、ホームで飼っている犬を近所の方が散歩に連れ出すなど開かれたつきあいがもたれている。フラダンスなど地域ボランティアの訪問もあり、地域の方と自然な交流・ふれあいの関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時より、個性・ゆとり・看取り介護を主旨とする基本理念「決まった流れにとらわれず、ゆとりと、笑いの絶えないホーム 看取りの介護まで」を掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。地域密着型サービスとして、日常的に地域との交流・ふれあいを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に説明するとともに日々実践に努めている。特に看取りについては、理念に掲げているように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃などの地域活動に入居者と参加するとともに散歩時に話したり、洗濯物の取り込みを手伝ったり、敷地内の畑作業を一緒に行うなど日常的な交流がある。また、ホームで飼っている犬を近所の方が散歩に連れ出すなど開かれたつきあいがもたれている。フラダンスなど地域ボランティアの訪問もあり、地域の方と自然な交流・ふれあいの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を「より良いサービスへ結びつける」機会としてとらえ、前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的実施している。家族代表や町内会長・地域包括支援センターの参加があり、活動報告や防災訓練の協力依頼などを行っている。活動内容や行事の報告を行っており、運営推進会議を地域との連携を高める機会として活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、相談するなど情報を得ている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	外部研修に参加し、理解を深めるとともに、社会福祉協議会のパンフレットを完備し、必要に応じて家族に制度について説明している。以前、成年後見制度の利用者があり、制度利用に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問を促す観点から、利用料などの支払いについては、振込みは行っていない為、家族の訪問は、必ず月に1回はある。その際、写真を渡したり、暮らしぶりや健康状態などについても報告を行っている。また、家族が遠隔地の方については、ハガキで様子を伝えている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れ、入居者の意向や気持ちを把握できるように努めている。面会時や運営推進会議などで、意見や意向を言っていたるように努め、出された意見や意向は、その反映に努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が運営する4事業所間での異動はあるが、運営者は、必要最小限に抑える努力をしている。止むを得ない異動の際には、引継ぎや申し送りを徹底することで、入居者のダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用・募集にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除することはない。実際に60歳以上の方も勤務している。また、外部研修への参加や内部での勉強会の実施など、職員研鑽の機会も確保している。職員へのヒアリングから、代表者・管理者に相談しやすい環境であることも確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	外部研修に参加するとともに、人権に関する広範な内容を網羅した資料を揃え、これをもとに、コンプライアンスと併せて、内部研修を実施し啓発に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修への参加や内部での勉強会の実施など職員の研鑽の機会確保に努めている。外部研修参加後は、報告書の提出を求め、職員間での周知を図っている。また、管理者は、職員の悩みを聴くなど職場内のコミュニケーションの充実に努めている。職員のヒアリングからも、相談しやすい環境であることが確認できた。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣の事業所(グループホーム・デイサービス)と、疑問点や問い合わせなど必要に応じて連絡を取り合い、交流するなどの関係を築いている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅訪問や利用している事業所から情報を得るなど情報把握に努めている。必ず見学を実施するとともに、何度か遊びに来てもらうなど相談しながら、徐々になじめるように配慮している。また、お試し利用(2泊)も実施しており、徐々になじみながら入居できるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	介護する側・介護される側という固定された関係ではなく、入居者には、できること・役割などを担ってもらい、職員と共に生活する関係づくりに努めている。また、戦争体験などを語っていただくなど職員が学ぶ場面も多く、共に支え合う暮らしを実現している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の多くは重度化しており、思いを述べたり、意向を示すことなどが困難になっているが、職員は、日常生活の中で、一人ひとりの役割や楽しみごとを試みたり、入居者の何気ないしぐさや表情の変化の中から、思いや意向をくみ取れるように努め、本人本位に検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>関係者の意見を参考にしながら、本人本位の計画作成に努めているが、今後は、更なる介護計画の充実を期待したい。</p>		<p>重度化に伴い、意向の把握が困難な現状を鑑み、生活歴の把握や家族から情報を得るなどアセスメントの更なる充実が重要となってくると思われる。併せて、暮らしの中で生きる喜びを見出すケア内容の検討が求められる。アセスメントの更なる充実と職員の日々の気づきや意見を反映しながら、職員間で話し合い、実際の介護に組み込んでいくなど、より本人本位の介護計画の作成を期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的及び必要に応じて見直しを行い、一人ひとりの現状に即した計画を作成している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>希望に応じて、受診に同行している。一人ひとりの楽しみごとや役割の創出に努め、本人の希望にそって買物や外出など柔軟な支援に努めている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。また、協力医の往診やかかりつけ医以外の受診にも、職員が同行するなど適切な医療が受けられるよう支援している。服薬内容についても、医師に相談を行い、本人の状態をふまえ、提案なども積極的に行っている。睡眠剤を服用している入居者はいない。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	指針を作成し、関係者と話し合いを重ねながら、積極的に取り組んでいる。看護師が4人勤務し、夜間勤務を含め、万全な体制づくりを行っている。また、看護師資格を有する管理者が、ホーム上階に住み、臨機応変な対応に努めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常生活の中で、十分に注意をはらい、一人ひとりのプライバシーが確保できるように努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの思いやペースを大切に、入浴の変更や急な外出など可能な限り柔軟に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	献立は、担当の職員が作成している。食材については、出来合いの物は使用せず、入居者の好みや状態をふまえて提供している。味つけについては、入居者に好評のようである。入居者も、できる範囲で、準備や片付けを行っている。畑で野菜を作っており、鮮度が高い野菜など季節を食事で感じていただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に2～3回入浴を実施している。一人ひとりの意向やペースを大切に、変更なども柔軟に行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	役割・楽しみごとの創出の為、手芸や編物・ぬり絵・買物・機能訓練など一人ひとりの好みや特技・生活歴をふまえて試みている。同法人運営のデイサービス利用者や行事の際に交流を行っている。また、行事の際には、ボランティアによるフラダンスや日本舞踊などが行われ、楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	一人ひとりの意向やその日の天候に応じて、近隣を散歩したり、ス・パーや図書館・ドライブに出かけ、閉じこもらない暮らしを実現している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、施錠することの弊害を理解し、施錠は夜間のみとし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全面の配慮については、見守りを徹底するとともに、外出を望む入居者については、職員が同行している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は年2回実施している。内1回は、消防署の立会いが確認できた。また、運営推進会議では、区長に協力依頼をするなど、地域への働きかけを行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	担当職員が、入居者の好みを反映した献立を作成し、調理を行っている。また、一人ひとりの状態に応じて、刻んだり、とろみをつけるなど、臨機応変に対応している。摂取量についても、日々記録し適切な量の確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間は採光が良く、広々としている。各所にプランターや手作りの飾りなどが配され、格好のアクセントとなっている。ピアノも置かれ、時々弾く方がいる。また、ウッドデッキや和室空間も完備され、思いも思いの過ごし方ができるようになっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	クローゼット・エアコン・介護用電動ベッド・ナースコールが完備され、緊急時の設備も整っている。入居者は使い慣れた調度品などを持ち込んでいる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			